



## 大河ドラマ「風林火山」にみる歴史の真相 — 山本勘助は創作された人物である —

愈々、NHKの大河ドラマも終局を迎えました。実は毎週、この「風林火山」を見ながら、なぜ原作者の井上靖はタイトルと異なる「山本勘助」を中心人物とする小説にしたのか、些かの疑問を禁じえなかったところであります。

ご案内ですが、学術上も「山本勘助」なる人物は「創作された人物」であると云われております。

武田信玄が逝去して30年後、家臣の高坂昌信らが書いた軍学書「甲陽軍艦」に「山本勘助」の名前が僅かに出てくると聞いていますが、その男は「軍師」とは凡そ無縁な人物であります。ところが、長く平安な江戸社会にあつてこの「山本勘助」なる人物は何時しか甲陽軍艦から抜け出して、寄席にあつては「講談の演材となり、さらに「芝居」のヒーローと折々の脚色家によつて勝手に変身させられて、今日の「山本勘助」が出来上がったのであります。

義経の「武蔵坊弁慶」、清水次郎長の「森の石松」も同様に物語を熱くさせる脇役であつて、「創作された人物」の範疇に入るものであります。

だからこそ、当初私には大河ドラマのタイトルが「風林火山」としたことに納得できなかったのですが、漸く終了間際になつて理解できたのであります。

「風林火山」とは「孫子の兵法」にある「戦略」からの造語です、この言葉を武田の幟旗とした時から

「甲斐の武田」が歴史の中に登場してくるのであります。即ちそれまで弱小の武田軍が、「孫子の兵法」を実際の戦争に用いることによつて、信州から駿河に至る一大勢力をもつ大名に押し上がることができたのであります。

その際、「山本勘助」が考えたとされる戦略の多くは「孫子の兵法」からの引用であつて、「孫子の兵

### テロ対策上、入国時の指紋押捺

政府はテロ対策上、11月20日より16歳以上の外国人には、日本に入国する際、「指紋と顔写真」の提供を義務化するところとなった。

これに対し日弁連や人権団体からは「人権侵害」の懸念の声があると云う。

18年前、私は静岡市議会の一般質問で革新系の議員から在日韓国・朝鮮人ら永住者の「指紋押捺制度」に対する見解を質された。

質問者は前市長時代にも同様の問題を質問したが、確固たる回答もなく有耶無耶のまま再度の登壇となった。

ご案内のように在住韓国・朝鮮人は常に登録証を携帯する義務を負い、また更新時には指紋の押捺が課せられていた。当然のこと、この押捺には在日の方々の不満は長い間潜在し続けていたのである。

法」を擬人化した結果が創作された「勘助」であるとは考えます。

ですから例えば久能山にある「勘助井戸」は全く「山本勘助」とは関係ないにも拘らず、彼が掘った井戸と多くの市民に信じられております。また番組の中の「桶狭間の戦い」は山本勘助が駿府に向いて、上洛を志す今川義元を駿府に訪ねて畏に懸けたという筋書きも、昔の劇作家が思いついた荒唐無稽の遊びに過ぎないと私は想像しております。

恐らく、この番組を通してまた新たな「歴史」が創造されることでしょう。

「人権侵害」を盾に、声高に叫ぶ彼に、私は「押捺を拒否する方に敢えて強制はしません」と一言で答弁、その瞬間、呆気にとられた議会は静まり返つたのであつた。この答弁は翌日の新聞にも大きく取り上げられ、早朝、市民生活部長のもとに県警が訪れたことからその波紋の大きさを知るところでしょう。

確かに警察にとつて「指紋押捺」という行為が犯罪抑止の役割を担い、また一方では捜査上の大事な資料でもあるでしょうが、一部の在日外国人だけに押捺の義務を負わせることに疑問を持つていた私の素直な回答でありました。

それから半年後、政府も指紋押捺制度を廃止したのであります。

ところで、テロ対策上、日本を訪れる全ての外国人に指紋押捺を求める事は今日の不安定な国際社会にあつては致し方ないのではないか、更に近い将来、この制度は世界共通の必須の条件となるものと考えます。

# 有東と有東遺跡

「登呂」の地名が「アイヌ語」から派生したものと先月のSHINGO SCOPEで披露しましたが、今回も引き続き「有東」についても同様アイヌの言葉から誕生したとの説をご紹介します。

アイヌ語でウトウは一般に突き出た場所、或いは「切り通し」のような狭隘な地形を意味し、本市の「有東」と同様、全国的に地名として存在しております。

「有東」は八幡山と有東山に挟まれた狭隘な地形からこう呼ばれたものと考えます。

戦後、国を挙げて「登呂遺跡」の発掘に邁進していたころ、既に有東遺跡の存在も認められ、埋蔵文化財の調査が進められておりました。

実は「有東遺跡」は「登呂遺跡」より遙かに遡り、遺跡は「縄文時代」を反映しております。恐らく、この有東地区の住民の一部が紀元前後に登呂方面に移転した痕跡が登呂遺跡であると言われています。

過日私は谷田にある県埋蔵文化財調査研究所を訪ね、周辺の遺跡の発掘状況や人々の生活・文化など学芸員から教えていただきました。原日本人であるこの

有東遺跡の人々もそれ以前には大谷方面の山間地に住まいし「狩獵」中心の生活をしていました。何時の時に「渡来人」が持ち込んだ農業が伝播し、自分たちの居住環境と稲作の可能な適地である

「平地」に移動していった歴史を物語っております。

また一方では、奈良時代の有度郡の郡領家であった「有度君」の本拠地ではないかとの説もありますが、「有東」と「有度」はその領域に開きがあり過ぎ、説明には無理があると思えるのであります。

## 一寸一言 私の雑記帳から

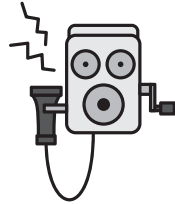
### 金子堅太郎の「楽しい一言」

このSCOPEの影響か、最近、皆さんから「静岡の歴史」の講座を依頼される機会が増えております。その講演の中で折に引き出す余談の一つに、明治時代の政治家・金子堅太郎の「楽しい一言」を紹介しております。

殆ど知られておりませんが金子堅太郎は、明治4年、福岡藩主黒田長知に随行して渡米、後にハーバード大学で法律を学びます。帰国後、明治政府に登用され、明治憲法の草案に関り、更に貴族院議員となつて、農相や司法相を歴任、日露戦争の開戦時には「外交工作」のために渡米した政治家です。

その金子がハーバード在学中のある日、

「グラハム・ベル」が遠距離の会話を可能にする「電話機」を発明した新聞記事を読んだ時、物理の何たるかも知らない彼は早速「ベル研究所」を訪ねました。



応対したベルは初めて見た若き東洋人に懇切丁寧にその原理を説明したとの事です。

金子は勿論、漠然たる理解ではあつたが、納得しながらグラハム・ベルに深甚な感謝の言葉をもつて研究所を辞したのだ。

門を出た瞬間、彼の脳裡に、ある重要な、疑問が湧き上がり、即座に踵を返すや今一度、グラハム・ベルに尋ねました。

「この電話、日本語でも使えますか」

## 手づくり入浴剤で、からだもこころも温かく。



今年もあと1ヶ月。何かとせわしない気分で毎日が過ぎていきます。多忙な師走こそ、あたたかなお風呂でのんびりと和みたいもの。最近では家庭用の入浴剤も実に様々なものが揃っています。市販のものをあれこれ試すのも楽しいものですが、昔ながらの身近な素材を使った手づくり入浴剤はいかがでしょうか。しょうがの絞り汁を使う「しょうが湯」は、新陳代謝を促し風邪を予防します。体の芯から温まるので湯上りもホカホカ。また、みかんの皮を陰干して使う「みかん湯」は、血行促進と美肌効果が期待できます。ユニークなところでは、松の生葉を煮出して煮汁を使う「松湯」。松の葉の精油成分に血行促進と疲労を和らげる働きがあります。干し大根を刻んで袋に入れて使う「大根湯」にも、保温効果があるといわれています。そして冬至には、おなじみの「柚子湯も」お忘れなく!身近な植物や食物を使って、12月のお風呂タイムをのんびりと楽しんでみましょう。

## 歴史講座のお知らせ

町内会の集會、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。嬉しいことに最近、グループや町内会などで「天野進吾」の歴史講座の要望が増えて参りました。このSHINGO SCOPEの郷土史が好評ですのでその現れかもしれません。どうぞ、お気軽にお声掛けください。